建築家の往復書簡

原広司 ― 磯崎新

4 時間はその都度の機会である

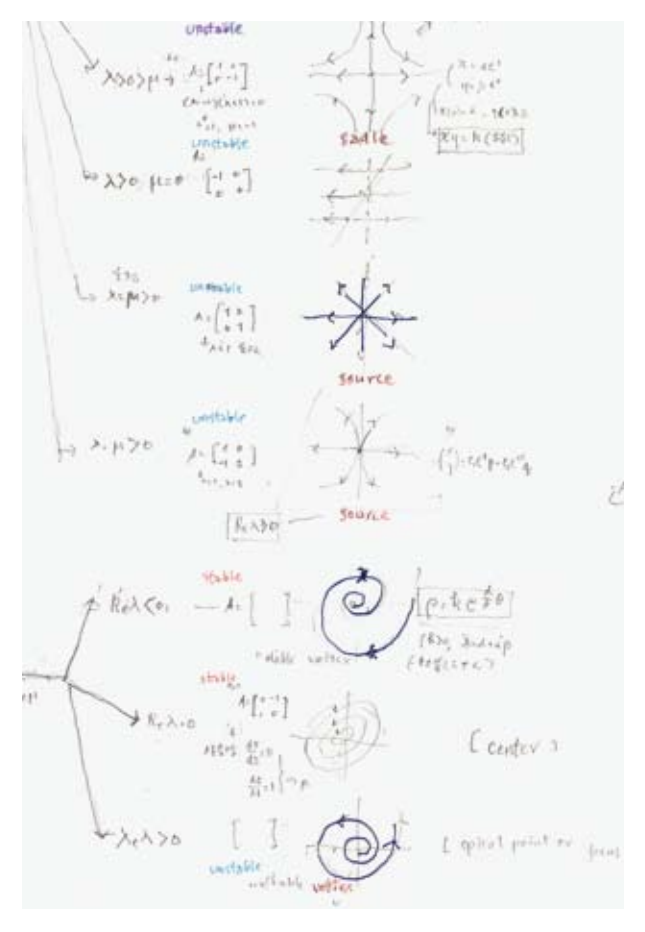
磯崎新様

Hiroshi Hara 原広司

「時間は想ったときにやってくる」

この前の磯崎さんの書簡の言葉。美事な解釈ですね。「有時庵」の建築の現場つきで。ここでの解釈とは、かく理解するではなく、かくのごとく世界を構築する、との意味において、です。たとえば、「間」についても、そのように解釈しなくてはならないのですね。俗に言えば、世阿弥を西欧の流儀で理解しようとすると、時間のひとつの可測性が、浮上しがちである。磯崎さんの文脈に従うなら、時間はその都度の機会であるとなるように思われますし、「間」もその文脈上で捉えなくてはならない――。

木村俊彦さんのメモリアルの後は、皆でおしかけて、失礼致しました。たしかに、遙か昔の反復、再現のようでもあり



二次元線形ベクトル場―平衡点一覧表（部分）

9011042740

北海道支社	Tel.011-330-1710	Fax.011-370-1717	〒065-0008 札幌市東区北8条東10丁目1番1号
東北支社	Tel.022-301-9712	Fax.022-301-9726	〒981-0933 仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台
首都圏統括支社	Tel.03-5541-7050	Fax.03-5541-7129	〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目10番5号 INAX東京ビル
関東統括支社	Tel.048-668-1227	Fax.048-666-7047	〒331-0811 さいたま市北区吉野町一丁目23番6号
中部統括支社	Tel.052-310-1703	Fax.052-310-1701	〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目4番16号
北陸支社	Tel.076-264-1710	Fax.076-264-1755	〒920-0025 金沢市駅西本町一丁目15番26号
関西統括支社	Tel.06-6539-3500	Fax.06-6539-3524	〒550-0012 大阪市西区新町1丁目7番1号
中国支社	Tel.082-850-3917	Fax.082-850-3920	〒731-0113 広島市安佐南区西原六丁目11番8号
四国支社	Tel.087-815-3377	Fax.087-815-3390	〒760-0079 高松市松縄町1087番地3
九州支社	Tel.092-471-1741	Fax.092-471-1751	〒812-0007 福岡市博多区東比恵二丁目8番16号

●社名・住所の変更は、Faxまたはハガキで、最寄りの支社にご連絡ください。

INAX
For Precious Life

カ-RP182

原広司学兄

Arata Isozaki

磯崎新

私が、はじめて「建築」した、と思っていた大分県立図書館を、原さんに批評していただいた文章がありました。ただひとりだけこの建築のことをわかってくれている人がいる、これで何だか生きのびれそうだと勇気付けられたのでした。そのとき、原さんは、私が学生の頃、ティエール・ド・シャルダンの『現象としての人間』をよめ、といって歩いていたと書かれました。あれは雑学を雑学として読んでいた頃でした。人間の集合意識が百万年後に宇宙脳に変成結実するという奇妙な本でした。カントの世界共和国は、せいぜい現世を想像的空間の範囲で理解するにすぎない。ここでは古生物学を研究し、北京原人の骨をさわっていた人らしく、この時間＝生命の論には何だか突き抜けるものがありそうだなどと雑学していた頃を想いだしたのです。しかし、こんな論証なしの仮説は、神学の領域のもののようで、禅ほど身近にこない。私はクラークとブラッドベリーに移行、宇宙脳では手にあまるので、都市脳についてのプロジェクトをやろうとして泥沼にはまったのです。そして思考停止。雑学的SFも停止。いっしょに集めていた六〇年代ロックのジャケットも、エリック・クラプトンが「クリーム」をはなれたときに停止。ひたすら零度の思考に徹したいと考えたのですが、今度はもっと大きい騒音に襲われはじめた。内耳の奥が故障していて、「めまい」が起るのです。SFやロックにたよる必要もない。邪魔だと思って、ひもでしばって、押し入れにほうりこんだ。以後、四〇年近いSFの展開についていってない。SF映画ではスタンリー・キューブリックのウェルメイドよりは、ディヴィッド・リンチのバッドメイドのほうがましか、などという二〇年ぐらい前の感想がいまだにつづく。原さんが繰りだすSFの新型にはノック・アウトされつづけているのです。

雑学的神学については、「めまい」に襲われた頃、いろいろな本を捨てたのですが、「グノーシス」と「スーフィー」だけは、あまりに世間が認める気配がないので保存しました。雑学の種類が減りました。いろんな停止をやったときに、実はプラトンからはじめてみようかと思いたったのです。とはいっても先人がすべてこなしてあって私たちのはいり込むスキ間はない。

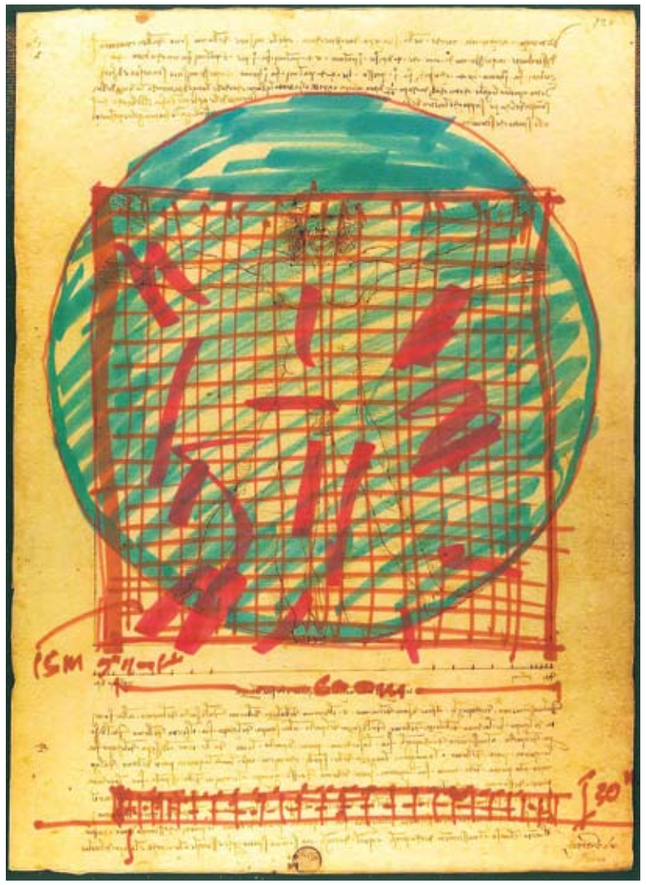
デミウルゴスという「たわけ」をみつけました（「ティマイオス」の雑学的記述のなかにあります）。グノーシス派がこれを気にしていたことがわかり、「デミウルゴモルフィスム」（造物主義と勝手に造語しました）論という舌を噛みそうな片語を書きました。SFを忘れてしまっていたのです。「グノーシス」は神の他者といっている。日本的な表現では「たわけ」！といえばいい。かつて都市脳といっていた構図がウェッブ世界が出現したときに崩れたようにみえたのですが、そのウェッブのなかでクラウド・コンピューティングが論じられはじめた。あの「たわけ」がやろうとしていたことに近い。あいつは電脳と同じくアホなのです。馬鹿力だけはある。かつて、アレクサンドリアにはグノーシス派がうろついていました。まだアホがのこっていたら、それをあてにしよう、と思ったのが、昨年の秋のことです。審査の様子を聞くと、貴兄の案が当選することになっていたようです。それなのにこの連中は「たわけ」案をえらんでしまった。場所がアレクサンドリアだったためかもしれません。

まだ「スーフィー」が残っています。貴兄のいうように、こっちとつき合うと火傷ぐらいではすまない。処刑されるかも知れません。そんなプロジェクトにつき合おうとしています。カラシニコフをもった迷彩服の兵隊が護衛してくれていますが、ここの上空にはさらなるバカが飛ばす無人機がうごいている。どうしましょうか。

二〇一〇年二月十八日

磯崎 新

はらひろし――建築家／一九三六年生まれ。一九六四年、東京大学教物系大学院建築学博士課程修了。一九六九年、東京大学生産技術研究所、一九九七年、退官、同名誉教授。一九七〇年よりアトリエ・ファイ建築研究所と設計共同。一九九九年より原広司＋アトリエ・ファイ建築研究所所属。
いそざきあらた――建築家／一九三一年生まれ。一九六一年、東京大学教物系大学院建築学博士課程修了。一九六三年、磯崎新アトリエ設立。



エジプト日本科学技術大学のコンセプトスケッチ